

ぜんしゅりきょり

2014
7月
July

通巻77号

第27回通常総会を東京で開催!!

平成26年5月20日(火)、東京の浅草ビューホテルにて第27回通常総会が開催されました。総会の出席状況は、組合員数366名に対して、出席組合員数89名、委任状出席者20名、合計293名で出席率は80%となりました。定款38条に定める総会成立条件の過半数を超え、本総会は有効に成立いたしました。



司会の西春貞男氏

一日目午前中は六名による三役会、午後からは各委員会・ニューリーダー部会・役員会が行われました。その後西春貞男氏司会のもと第二十七回通常総会の開催です。

内田副理事長より開会の辞、本年度お亡くなりになった方への黙禱、昨年五月以降の新組合員総会参加二名の紹介の後、小堀理事長より総会のご挨拶。

今回も、全国中小企業団体中央会・経営支援部長大利滋様にご来賓としてお越しいただきました。大利様には六年に渡り中小企業等の協同組合の運用や解釈について全宗協へのご指導をいただいております。退任役員表彰式では、内田長祐副理事長、井上芳徳常任理事、滝田雅敏理事、福井明夫監事が表彰され、代表して内田長祐氏にご登壇いただき、感謝状と記念品目録

の授与が行われました。

池田副理事長の閉会の辞で、本年度の通常総会も無事終了しました。

講演会では薬師寺執事大谷徹英氏にお越しいただき、薬師寺由来の般若心経にまつわる講話に(P4～P5掲載)、参加者のみなさん

もたいへん引き込まれていました。その後の懇親会では東京浅草組合(浅草見番)の芸妓さんによる踊りと演奏、開催地区からの鍵の受け渡しが行なわれ、一日目を終了しました。

二日目関東の皆様のご協力でのエクスカージョン、親睦ゴルフコンペが滞りなく行なわれました。

◆通常総会

1 小堀理事長より総会へご挨拶

関東甲信地区の会員の皆様が始めて全ての準備をして下さった事に篤く御礼申し上げます。

まず全宗協の動きの一端をご紹介させていただきます。毎年恒例になりました一泊研修・一日研修は

吉田委員長を中心に順調に定着して来ております。一方役員会で「活路開拓委員会」を作りました。今

で業界ではお仏壇のスペックを中心にお客様に説明していたことが多かったですと思いますが、そうではなしにお仏壇のソフト面、お仏壇はどういう風に日本の皆様に役に立っているかということを確認したいという意味、その方向の一つとして海外展開も案として浮上して来ています。

日本の伝統文化・工芸品などは海外でも展示会が行われています。お仏壇をはじめとする日常生活はまだ知られていませんが、日本人の礼節の正しさなどにお仏壇などの宗教用具が貢献しているのではな

いか。そういう点できっと高い評価を得られるのではないかと思います。しかし、反対の意見もあると思いますので、皆様のご意見をしっかりと伺いしませんと事業



挨拶をする小堀賢一理事長

とさせていただきます。毎年恒例になりました一泊研修・一日研修は



浅草ビューホテル

【目次】

P1	通常総会
P2	各委員会報告
P3	懇親会、新年度役員選出
P4	講演会 薬師寺執事 大谷徹英氏
P5	
P6	エクスカージョン、ゴルフコンペ、事務局からのお知らせ

2 総務委員会の報告

①全国研修会
平成二十五年一〇月二日～二日、メルパルク京都及び東本願寺にて第一回国研修会を開催。計五名の講師による講演、修復中の東本願寺の見学を実施。

平成二十六年二月二十一日、株式会社エッサム神田ホールにて第二回国研修会を開催。公正取引協議会の説明とパネルディスカッション、ニューリーダー部研修事業報告、講演会の三部構成で実施。

②会報の発行 六月、十二月、三月と年三回発行。

3 広報委員会の報告

①降誕会・花祭りポスターを配布。
②『ありがとうはみんなの力』グッズ（のぼり・ポスター・缶バッジ）を作成し配布。
③『ありがとうはみんなの力』運動を全宗協ホームページに掲載。

4 事業委員会の報告

『こんな仏壇あったらいいな コンテスト』（仮称）を『こんな（心）の拠り所 あつたらいいな』に変更し、展示会中心型から在住外国人の心の拠り所など各種の調査を含めた事業として推進することになり、現事業計画を推進中。

5 正常化委員会の報告

①研修会にて公正競争規約の現状や要

望などを報告し、会員と意見を交換。
②会員から寄せられた情報により、不正表示が疑われる対象（主に展示即売業者）へ警告を行う。
③公正競争規約の普及のためのポスターを配布。一般にも公共施設用として配布。
尚、平成二十六年一月末現在、公正取引協議会会員数は五五九社。



退任役員表彰式 内田長祐副理事長

6 ニューリーダー部の報告

①北陸研修会

「技・商・心の深化」の基本方針の元に開催。漆と金箔、プラスチック仏具の製造工程を見学。製造現場・行程を見学することで商品知識を得ることができた。前年の比叡山研修にならい、正・協力部員の他に、組合員または全宗協加盟店の社員にまで広く参加者を募り、その結果、過去最大の参加人数になった。このオプザーバー参加の目的は、NL部の活動を直に体験していただき、部員増加、参加率向上につなげるというものであるが、研修後入部を希望される方もあり、研修会自体の成果と共に、部員増加にも効果があると感じた。

②全国研修会

リコージャパン株の佐々木信氏を講師に招き、「iPad活用による顧客対応力強化と業務効率化」と題しセミナーを企画。来年度以降もこうした要請があれば協力していく。

③全国研修会（二月）

NL部が研修会自体を計画することになり、急なことはあったが、知恵を出し合い、また親会とよく連携し、パネルディスカッション、北陸研修会報告、武藤頼胡氏による終活の講演会とを含め満足できる内容であったと自負。

いずれの研修に於いても、多くの方々のご参加とご協力を賜り、滞りなく運営することができた。

平成二十六年度は役員改選の年。新執行部に対しても、引き続きご支援、ご協力を賜りたい。

理事会



通常総会

懇親会



浅草といえば、浅草芸者のお座敷遊びです。今回の懇親会では東京浅草組合（浅草見番）の芸妓さんによるお舞踊（「立方（たちかた）」）、歌や三味線などの鳴り物の演奏（「地方（じかた）」）をご堪能いただきました。

その後は芸妓さんがそれぞれのテーブルをまわり、御酌していただきながら会話を楽しんでいただくという、贅沢な時間となりました。

今回の総会開催地、関東甲信地区協議会長前田平成氏から、小堀理事長へ鍵の返還、そして次年度開催地の阪奈兵和地区協議会長佐倉弘氏へ、鍵の伝達が行なわれました。



関東甲信地区から鍵の返還

阪奈兵和地区へ鍵の受け渡し

《新役員名簿》

役職名	代表者名	役職名	代表者名	役職名	代表者名	役職名	代表者名	役職名	代表者名
理事長	小堀 賢一	常任理事	橋本 晃一	理事	坂田 晴義	理事	川喜田 彰	理事	今浦 公博
副理事長	三村 博昭	常任理事	佐倉 弘	理事	山田 宗宏	理事	吉田 光宏	理事	森 正
副理事長	池田 典明	常任理事	高山 正	理事	安田 元慶	理事	神戸 良司	理事	岩佐 武彦
副理事長	八田 守立	常任理事	今山 秀人	理事	廣川 勝彦	理事	岸本 光史	理事	吉本 康彦
副理事長	白川 十郎	常任理事	江頭 那将	理事	山口 敏雄	理事	中田 信浩	理事	野上 嗣之
専務理事	西春 貞男	理事・相談	安田 松慶	理事	小長井 由朗	理事	中造 和夫	理事	東 純一
常任理事	保志 康德	理事	丸屋 輝夫	理事	河田 栄治	理事	山中 誠人	監事	本保 実
常任理事	前田 平成	理事	升谷 昇平	理事	水野 清仁	理事	濱田 明彦	監事	山本 晴彦
常任理事	木本 隆久	理事	松野 智幸	理事	杉浦 伸司	理事	松谷 和美	監事	前田 平八
常任理事	小室 健次郎	理事	川本 恭央	理事	坂 新太郎	理事	横田 正登		

《地区協議会役員及び委員名簿》（平成26年度～平成27年度）

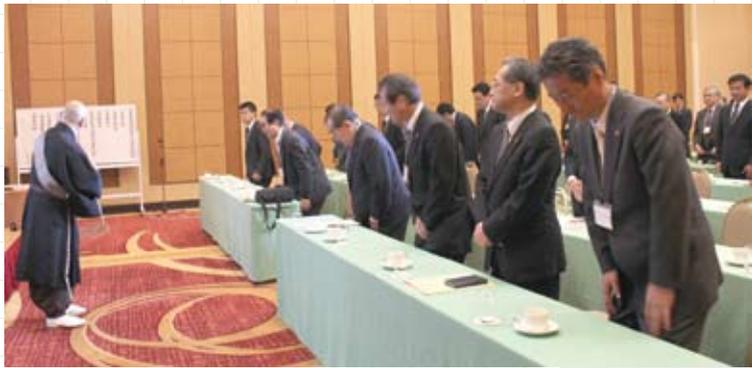
●委員長 ○副委員長

地区	地区協議会会長	地区協議会副会長	総務委員会	広報委員会	事業委員会	正常化委員会	会員増強委員会
北海道 東北	八田 守立	升谷 昇平 丸屋 輝夫	升谷 昇平 藤村 義郎	●保志 康德 小嶋 長一	丸屋 輝夫 佐々木丈巳	小野 隆市 兒玉 高周	八田 守立 佐藤仁一郎 佐藤 晶洋 渡部 徳章
関東 甲信	前田 平成	坂田 晴義 山田 宗宏	松野 智幸	川本 恭央	鳥居 邦夫 辻 幸明	山田 宗宏	小森規興志 小仲 正克 前田 平成
北越	木本 隆久	本保 実	廣川 勝彦 関 秀道	山口 敏雄 大竹 正信	●池田 典明 木本 隆久 星野 幸博	笠原他喜雄 大越 則夫 岐津 晃平	藤田 整司 竹澤 恵子 吉田 竹也
東海	小室健次郎	小長井由朗 杉浦 伸司	杉浦 伸司 山田 宗宏	○横井 浩 川喜田 彰	小室健次郎 小長井由朗	坂 新太郎 水野 清仁	○河田 栄治 柴山 義幸 河野 善孝
京滋	橋本 晃一	田中 雅一 吉田 光宏	●吉田 光宏 刑部 正巳 土屋 隆 大久保 武	三浦 豊隆	○岸本 光史	加茂 定治 神戸 良司	●橋本 晃一 小林 大介 畑 正高
阪奈 兵和	佐倉 弘	濱田 明彦 山中 誠人	山中 誠人 中田 信浩	濱田 明彦	○中造 和夫	佐倉 弘 松谷 和美	福井 正彦 下村 暢作
中国	高山 正	今浦 公博	今浦 公博 中谷 哲夫	高山 正 藤田 孝夫	田戸 孝雄 中原 博	三村 博昭 横田 正登	三村 邦雄
四国	今山 秀人	森 正	木下 進 松浦 宏治	高井 一憲 立花 孝文	吉本 康彦 依岡 敏治	●森 正 岩佐 武彦	上林 敏成 岸本 耕三 今山 秀人
九州 沖縄	江頭 那将	白川 十郎	○江頭 那将	野上 嗣之	東 純一	○白川 十郎	江頭 那将 白川 十郎
担当 副理事長			三村 博昭	三村 博昭	池田 典明	白川 十郎	八田 守立

講演

薬師寺執事 大谷徹契氏

ご縁をいただき薬師寺から参りました大谷でございます。私は一年間の半分以上旅をしながら法話をして歩いているのですが、どんな会場に行っても必ず守っていることが一つだけあります。それは話の最初と最後に同じ目の高さで挨拶をするということです。人と人との出会いは命と命の出会い。これからお話しする九十分間はお金では買えない自分の命を削って話します。皆様方も命を削ります。このメンバーでお会いできるのは人生で最初で最後です。そのご縁に感謝させていただいて一緒にご挨拶しましょう。限られた時間ですが一緒に学ばせていただきます。



ご挨拶から始まります

●薬師寺とはどんなお寺なのか

仏壇を家に置くということを始めに提唱された天武天皇が建立を願われたお寺が薬師寺です。一般に「お寺」と言えばお墓、お坊さんと言えは葬式というのが方程式ですが、私がお世話になっている薬師寺は、お墓を持たず、僧侶は一切葬儀に触れることはありません。同僚のお坊さんが亡くなくても誰もお経を上げてくれません。極端に言えば、亡くなった人は相手にしていません。この心で、心を勉強する道場として建てられたのが薬師寺です。

●お寺の教科書は「お経」

「経」の字は「けい」とも読み、北極と南極を繋ぐ線のこと。上と下を繋ぐという意味です。「ぎょう」とも「けい」とも読まないときは「一字で」たいてい「と読まさせていただきます。また「みち」とも読まさせていただきます。そのお経が何を繋いでいるのか。お坊さんの一番の仕事は「人間関係」。私は人間をずっと見続けて「ただ知っていることがあります。それは「人間が人に見せる顔は嘘つき」だということです。皮を一枚剥いたらどんな顔が出て来るか分からない。人間は生まれてから死ぬまで迷いと悩みの連続です。私たちはずっと迷っている。その迷っている私たちが幸せになれるように、よりよく人生を歩めるように導いてくれるガイドブックがお経。呪文なんかではありません。人生の先輩方が穴に落ちないように、壁にぶつからないように親切に説いて下さったのがお経です。

●命はリレー

皆様方の父母、祖父母、曾祖父母の名前を声に出して言えますか。私たちの命の流れというのはご先祖様があって自分がいます。私たちが死ぬと先祖

と呼ばれるようになり、そこから子孫が育っていく。私たちが生きているのはちょうどこの真ん中だということをよく勉強していただきたい。駅伝に例えると、今私たちは棒をもらって懸命に走っていますが、いつか100%の確率で棒を次の人に渡さなければならぬ。前に走る者がどんな生き方をするかによって次の人の幸せが変わって来るのです。

●生かされている時間は
中今(なかないま)

私たちが命を与えられている時間を学校教育では「今」と言いますが、奈良時代は「中今(なかないま)」と言っていました。戦後の私たちは「今教育」を受けて来ました。そこからは「今さえよければ良い」「自分さえよければ良い」という心が出て来ます。でも、「中」が付くということは後先がある。そういうリレーの中に生きているということは、どういう生き方をしていかなければならないのかということをお学ばなければいけないということです。

●身心安楽(しんじんあんらく)

お薬師様のお経の中にある私たちが幸せになるヒントを与えてくれる言葉です。「身」は目に見える物の世界。「心」は目に見えない精神の世界。この両者のバランスが取れたところで本当の意味で生きる喜びが押し寄せて来ます。今日の私たちは目に見える世界で不自由している人は殆どいません。世界の歴史を見てもこんな豊かで安全な暮らしをしている国は他に無いでしょう。それでは今、心の底から幸せだとはっきり手を挙げられないでしょうか。

挙げられないのは、私たちは目に見えないところだけを整えても、肝心の心の勉強はして来なかったからです。いくらいい物を持っていても、心が幸せにならなければ、本当の幸せにはなれないという

ことです。これからの日本人はこの心を取り戻さなければなりません。

●観自在(かんじざい)

般若心経というお経を一緒に勉強しましょう。このお経を翻訳されたのが「玄奘」というお坊様です。唐の初めの時代に活躍された方で、鎖国の法律を犯してまでも命をかけてインドに行って、命をかけてお経を持って帰って来られた方です。それを私たちが分かるように翻訳してくれた中の一つが玄奘訳の般若心経です。因みに、私たちの薬師寺は玄奘直系のお寺です。

文字は僅か二七〇程。その二行目は「摩訶般若波羅蜜多心経」で始まります。これがタイトルで、本当のお経は二行目から。とても難しいお経ですが、ここから私たちの生き方を学ぶことができます。

このお経のポイントは「空」「色」でもありません。本当のポイントは最初の五文字と最後の二行です。この有名なお経の書き出しは「観自在菩薩」という仏様のお名前から始まります。お名前は聞いたことがあるが姿を見たことがない。実は「観世音菩薩」の別名なのです。観音様という仏様なら皆様いくらでもお会いになったことはあると思いますが、玄奘様は「観自在」と書き直しました。分かり易く言いますと、もうすでに「花子さん」という名前で有名だったものを、玄奘様が「幸子さん」に書き換えてしまったということです。なぜそうなったのか。その答えの中から私たちの生き方を学ぶことができます。

「観音様」の方は「外側へ注意を払え」と書いてあります。これは人間は得意です。外側を観察するための五つのアンテナ、眼・耳・鼻・舌・皮膚「通称「五感」と言われる五つのアンテナを持っていつでも外側を注視しているからです。だから人の批判をさせるとみんな上手です。では自分自身はどうなんだと言われたら、今の言葉で言うところ「超ヤバイ」世界。私が名前の一字をいただいた玄

装様は本当に偉いお坊様でした。けれど、どんなに偉いお坊様であったとしても、目の前に辛い、悲しいことが重なったら、自分で選んだなどということはずっかり忘れて文句しか言わなくなるのです。人間とは汚い生き物です。私も修行(ぎょう)が辛くて自殺しようかと思った時がありました。本当にギリギリでした。みなさんも「何でこんな所でこんなことをしなければいけないんだ」と思ったことがあったでしょう。その答えが出るまで、ぐーっと攻め込むことを「観自在」と言うのです。「自分の在り様をよく観る」。因みにこの「在」という字は「おわす」と読み、「命」を表します。「自分の命をよく観る」ということです。

● 自覚悟(じかく)

自分しか使えない、たった一回の命をどう使うか。私たちが生きることができているのはここしか無いのです。私は薬師寺から派遣されて茨城の濱れたお寺を復興する仕事をしたことがあります。それは明らかに「左遷」なのですが、私は「自分に与えられた場所が一番いい場所である」と受け止め精一杯努力したところ、周りの人たちが助けてくれて一気に復興しました。文句を言っていない幸せにはなりません。文句を言うくらいなら、そのエネルギーを前向きに使うことです。

さて、お経は迷いから悟りへと言いましたので、その「迷い」から勉強しましょう。

私たちはいつも迷っています。「悟」という字は実は三文字の言葉の省略形で、上に二文字が隠れています。それが「自覚悟」。普段の生活で上の二文字を「自覚」、下の二文字を「覚悟」として使っている。つまり「自分で自分の心が分かる」「自分で自分の心を決める」ということです。恥ずかしい話ですが、私は薬師寺から3回逃げました。でも3回目に考えたのです。自分で選んだ道なのだから自分で尻拭きしないと気が付き、もう逃げるのを止めました。あの本田宗一郎さんも最晩年に「人生を

楽しませてくれてありがとう」と言って亡くなったそうです。私はすごいと思いました。自分の人生を「自覚悟」して歩き抜いたからこそ目的地に到達できた。私も修行とは何なのかと迷ったことがありました。

そこで薬師寺で五十年以上修行している先輩の僧侶に別々に訊いてみました。「修行とは一体何でしょう?」。答えは全員一緒でした。「止めないで続けることだよ」。ここで逃げたら次も逃げる。これを紙に書いて張って、歯を食いしばって修行を続けて来ました。

私たちが迷っている自分を超えてどうしたら自覚悟ができるのか。お経の中にこんな言葉があります。

● 静観自得(じょうかんじとく)

「静観」はさっきの「観自在」に当たり、「自得」が「自覚悟」に当たります。自分が何をすべきか、何ができるか、じっくり自分を見つめて肚を決める。それが坐禅であり念仏であり聞法であり写経です。私の師匠・高田好胤は写経に特化しました。余った時間に自宅で指導者なしでできるのが写経。ルール変更して成功しました。お手本の上から、お写経を写し書くというパターンです。今や七七〇万人の方がおやりになっています。今日も実物を持って来ました。薬師寺では鉛筆で書いて下さいとも言っています。木炭だから千年経っても消えないというのと、間違っても消して書き直せるからです。夢中になって書いているうちにいつか自分を見直すことができるのです。書いたらそれを薬師寺に送って頂く。そこで頂いた二千百の浄財で薬師寺という学びの場を維持させて頂いているのです。

● よつぼどの縁

私が仏教の中で一番勉強しているのが「煩惱」。

その次が「人間関係論」。全国を法話行脚し、ずっと見て歩いていて思うのは、一番難しいのは金儲けではなく人間関係だと思えます。それには「自分と自分」「自分とあなた」という二種類があります。ここでは後者についてお話ししましょう。

修行の中で「人はどうしたらぶつからなくなるのだろうか?」と考えてみました。そして三十年以上勉強して来た結果、とんでもない答えに到達しました。「こんなに愛していたとしても、血がつながっていたとしても、同じ志を持って歩いていっても、人間は持っている価値観が違うからぶつかることは避けられない」。これが答えです。私たちには生きて行く間、一人に一本ずつ「価値観」という物差しが与えられるのですが、全員歩いてきた道によって物差しの目盛りの幅が違います。その幅の違いで仲良くもなれるし喧嘩にもなります。

奈良県主催の婚活バスというのがありまして、その「お寺コース」の初回の講師が私。何と二十人ずつの男女の参加者のうち十六組のカップルをまとめました。好みの近い人、価値観の近い人が集まるのです。

私たちは一度身に付けた価値観をなかなか変えられません。それを超えて行くカギを仏教では「縁」と言います。この「縁」の上に好きとか嫌いとかという自分の感情を付けている間は本当の縁を育てることはできません。

しかし、その感情を付けることができるのは縁があった後。どうすれば好き嫌いを超えてこの縁を受け止めることができるのか。その答えを求めてお経を読み込んで行った先に答えがありました。誰にでも分かる易しい言葉で言いますと、「よつぼどの縁」。これが私独自の宗教観で、私の生き方の背骨はこの言葉で出来ています。

良く考えてみて下さい。私たちの出会いはたまたまでも偶然でもありません。今私たちは本当に得難い出会いの中で生かされているのではないのでしょうか。その縁を生かす、それが「よつぼどの縁」です。

では、今日の話の復習の意味で、今日皆様にお伝えした言葉を二回ずつ唱和して終わりといたしますし。

皆様と学びの場をいただきましたことに感謝申し上げます。どれか一つでも幸せの種として育て頂ければと思っております。

お出合いを心から感謝いたします。ありがとうございました。

プロフィール

昭和38年(1963年)4月16日、東京都江東区にある浄土宗の重願寺(じゅうがんじ)ご住職の大谷旭雄(おおたにきょくゆう)の二男として生まれる。芝学園高等学校在学中17歳の時、故・高田好胤薬師寺住職に師事、薬師寺の僧侶となる。龍谷大学文学部仏教学科卒業、同大学院修士課程修了。1999年春から全国各地で「心を耕そう」をスローガンに法話行脚。2003年8月16日 薬師寺執事 現在に至



オプションツアー

幹事：株式会社 浜田商店 西春貞男氏



東京スカイツリー展望デッキにて記念撮影

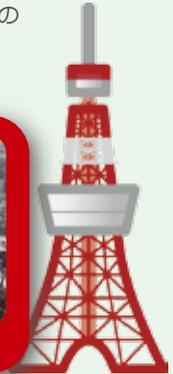


東京スカイツリーからの眺め

18名参加でのエクスカージョン。
浅草ビューホテルを出発後、一昨年開業した東京のランドマーク、高さ634メートルの東京スカイツリー®に搭乗。あいにくの雨でしたが、雲の切れ目から地上を眺めることができました。
その後、銀座の料亭スタイルレストラン「花蝶」で昼食をいただき、東京を代表するもう一つの塔、高さ333メートルの東京タワーに搭乗という、タワー尽くしのツアーとなりました。



東京タワーからの眺め



親睦 ゴルフコンペ

幹事：株式会社 安田松慶堂 安田元慶氏

筑波カントリークラブにて行われました親睦ゴルフコンペには16名の方にご参加いただきました。早朝から夕方まで雨が降り続き、とてもタフなコンディションでしたが、皆様に奮闘していただきました。

- 優勝：可児錠二さん
(トモ工陶業株式会社・愛知県)
- 準優勝：木下繁美さん
(株式会社カナクラ・香川県)
- 第三位：今山秀人さん
(株式会社イマヤマ・徳島県)



参加者のみなさんで記念撮影

事務局からのお知らせ

1. 当面のスケジュール

- ◆平成26年8月24日(日)
終活フェスタ in 東京・出展(都立産業貿易センター)
- ◆平成26年10月1日(水)～2日(木)
全宗協一泊研修会(メルパルク京都)

2. 組合員数 平成26年6月30日現在 367名

新規加入者 平成26年4月1日以降

(有)仏壇駒形屋 駒形貞洋様(4月10日)

3. 組合関係者の訃報(平成26年3月21日～平成26年6月20日)

【九州沖縄地区】

(株)中堂蘭仏壇店 代表取締役 中堂蘭 福丸様(ご本人) 平成26年3月

【北海道東北地区】

(有)浅野商事 代表 浅野 敏夫様(ご本人) 平成26年4月3日 69歳

【四国地区】

森 正(株) 代表取締役会長 森 正様(ご尊父) 森 力様 平成26年4月30日 84歳

【京滋地区】

(株)大西衣衣佛具店 取締役社長 大西 純司様(ご本人) 平成26年6月14日